

バイオダイバーシティ

考え方・方針

大塚グループは生物多様性がすべての事業活動になくてはならない自然資本であるとの認識のもと、自然の恩恵を受ける社会の一員として、豊かな自然を次世代につなぐ持続可能な社会の実現に向けて事業活動における生物多様性への影響に配慮し、保全と回復に取り組めます。

大塚グループ生物多様性方針

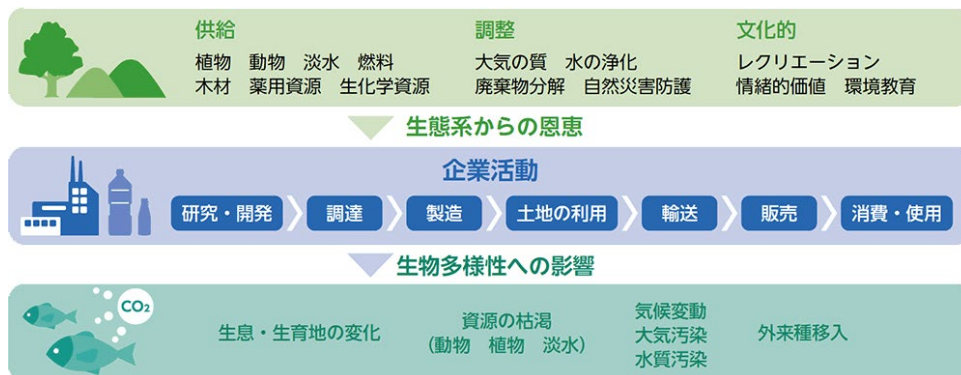
活動指針

1. サプライチェーン全体の事業活動と生物多様性との関わりを明らかにし、生物資源の保全と持続可能な利用を推進します。
2. 生物多様性に配慮した製品や技術の開発を推進し、自然への負荷低減に努めます。
3. 生物多様性に関する国際的な合意の尊重と、条約・法令を遵守し、遺伝資源の適切な入手とその利用、そしてこれに生ずる利益の公正かつ衡平な分配を行います。
4. 行政機関、地域住民、NGO などの様々なステークホルダーとコミュニケーションを図るとともに地域社会と連携・協力し、生物多様性の保全と回復に取り組めます。
5. 事業活動と生物多様性の関わりについての意識向上をはかり、保全活動の推進に努めます。

(2024年4月改定)



生物多様性と事業活動の関わり



指標・目標

大塚グループは、事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにするという2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を掲げ、バイオダイバーシティの中期目標を、RSPO 認証パーム^{*1}油およびサステナブルな紙^{*2}を100%利用することを2028年までの目標としています。生態系に配慮した事業の推進により、持続可能な責任ある調達（サステナブル調達）活動を推進しています。

*1 RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) が承認する持続可能な認証油

*2 適切に管理された森林認証制度に対応している認証紙や再生紙



2028年 目標

- RSPO認証パーム油を100%利用
- サステナブルな紙を100%利用

取り組み

地域の生態系に配慮した事業活動

大塚グループは、法令に基づいた動植物の保全のほか、地域に根ざした自然の保護などに取り組んでいます。生産拠点を有する国内外の事業会社に毎年環境アンケートを実施し、法律など（IUCN保護地域管理カテゴリー、ラムサール条約、国内法令）で定められた保護すべき動植物の生息についての法令遵守状況や保護活動の実施有無をモニタリングしています。また生物多様性方針・活動指針を改定し、事業活動における自然への依存と影響を評価していくため、自然関連財務情報開示タスクフォース (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures: TNFD) に沿った「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「目標と指標」に関する情報開示を行っていく予定です。今後も工場周辺地域における生態系リスクの把握および対策に努めていきます。

持続可能な調達

大塚グループでは、生物多様性の保全と持続可能な生物資源の利用が、当社グループの持続的な成長に必要不可欠であると認識し、持続可能性に配慮されたパーム油と紙の調達を進めています。パーム油については、順次RSPO認証パーム油への切り替えを実施していきます。紙についても、調達ガイドラインを作成し、報告書などの紙媒体についてはサステナブルな紙への切り替えを実施しており、今後は製品の包装資材についても切り替えを行っていきます。

